

歯科保健医療国際協力協議会

Japan Association of International Cooperation for Oral Health

JAICOH

第24回歯科保健医療国際協力協議会

総会および学術集会

飛び出せ世界へ

～ 新たな国際歯科保健 ～

抄録集

会期	2013年7月7日(日)
会場	東京医科歯科大学
後援	(公社)東京都歯科衛生士会 東京医科歯科大学歯科同窓会

会長あいさつ／Greeting

第 24 回歯科保健医療国際協力協議会総会・学術集会

The head of the 24th general assembly of JAICOH

会長 白田千代子 Chiyoko HAKUTA

JAICOH の会員の多くは、海外で活動を始め数十年経過している。日本で、長年外国人の生活支援の活動をしている会員もいる。今回の総会でも多くのアイデア豊富な体験経験を、発表してもらう。若いときから、海外に気軽に出かける日本人は、珍しくない時代になった。しかし、一時期よりも、海外活動の場で、韓国や中国の若い人達が目に付くようになってきている。活動をしているどの国でも、活動を始めた頃と比較して、生活のスタイルに大きな変化や、ゆっくりではあるが、インフラ整備も整いつつあることが感じられる。アジアの中心都市は、バイク、車や人の波で溢れている。6月に第5回アフリカ開発会議が横浜で開催され、アフリカの国々のことが身近に感じられることにより、よりクローズアップされるであろう。時代の流れに伴い、日本の歯科分野の教育現場では、国際歯科医療保健の教育が行われるようになり、学生時代から国際感覚を学ぶための授業が行われ、海外での滞在体験学習も、研究発表も体験できる時代となった。「飛び出せ世界へ～新たな国際歯科保健～」をテーマに、誰でも思いのある人が、当たり前前に自然な活動をするために、この場が語り合える場であってほしいと願っている。どの国の人々も、現地の問題を自分のこととして心を痛め、連帯できる仲間を求めている。何か支援をしてやろうなどという、上から目線には、どの国民も敏感である。これらのことが、今回の講演から理解していただけることを期待している。

Most of our Japan Association of International Cooperation for Oral Health (JAICOH) members has started their projects more than few decades. Some of our members have been supporting foreign residents in Japan for long years. They would show us various experience with much ideas in today' s meeting, the 24 general assembly of JAICOH. Time is changing; it is not uncommon to see the young Japanese go abroad. However, compared to certain years, we meet more young Korean and Chinese involving international cooperation recent years. Every country we cooperate, we feel the big change of living and slow improvement of basic infrastructure. The capital and main cities of Asian countries are full of motor bikes, cars and much people. The 5th Tokyo International Conference on African Development (TICAD) was held on June in Yokohama. After the TICAD V, Japanese would feel more familiar to Africa and African countries will more close up. With the change of time, under graduate student could take lectures about international cooperation and spend short time at university in foreign country to do and presen researches. The theme of the 24th JAICOH assembly is "Go abroad ~New Stage of International Cooperation for Oral Health". I hope the meeting could be a good place for discussion between our members with heart to do good activities. Every country, people need a good partner who take care of them to solve their problem with heart. They are very sensitive to the person with disrespect. I expect everyone to understand those important issues from today' s lectures.

第24回歯科保健医療国際協力協議会総会・学術集会および関連行事

1. 会期

2013年7月7日（日）

2. 大会テーマ

飛び出せ世界へ～新たな国際歯科保健～

3. 会場

東京医科歯科大学歯学部

4. 会長

白田千代子（東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科 教授）

5. 学会関連行事

学生セッション	7月6日（土）	17:30～19:30
前夜祭（学生セッション懇親会）	7月6日（土）	20:00～
開会式	7月7日（日）	10:00～10:10
昼食懇親会	7月7日（日）	12:00～13:30
総会	7月7日（日）	13:00～13:30
特別講演	7月7日（日）	13:30～14:30
歯科衛生士シンポジウム	7月7日（日）	14:30～16:00
一般演題Ⅰ	7月7日（日）	10:15～12:00
一般演題Ⅱ	7月7日（日）	16:00～17:00
閉会式	7月7日（日）	17:00～17:10

6. 後援

（公社）東京都歯科衛生士会
東京医科歯科大学歯科同窓会

日程表

2013年7月6日（土）

	【学生セッション】
	1号館8階第4講義室
17:00	
17:30	開場
19:30	学生セッション

2013年7月7日（日）

	【講演／総会】	【ポスター／展示】	【事務局】
	1号館9階特別講堂	1号館9階 グリルセインツ	1号館8階 白田教授室
09:00	開場		事務局
10:00	受付開始	ポスター／展示準備	
10:15	開会式	ポスター／展示	
	一般演題Ⅰ		
12:00		懇親会（昼食）	
13:00	総会		
13:30	特別講演	ポスター／展示	
14:30	歯科衛生士シンポジウム		
16:00	一般演題Ⅱ	ポスター／展示撤収	
17:00			

会場案内

東京医科歯科大学 1号館

〒113-8510

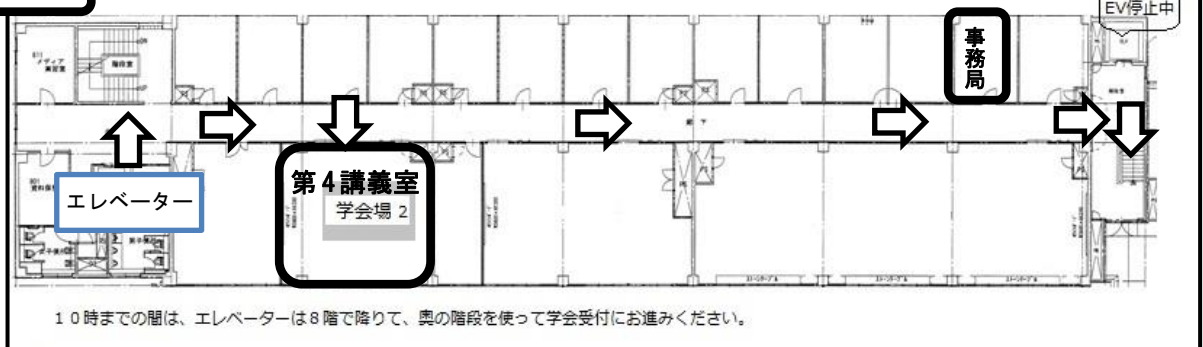
東京都文京区湯島 1-5-45

丸の内線
御茶ノ水駅

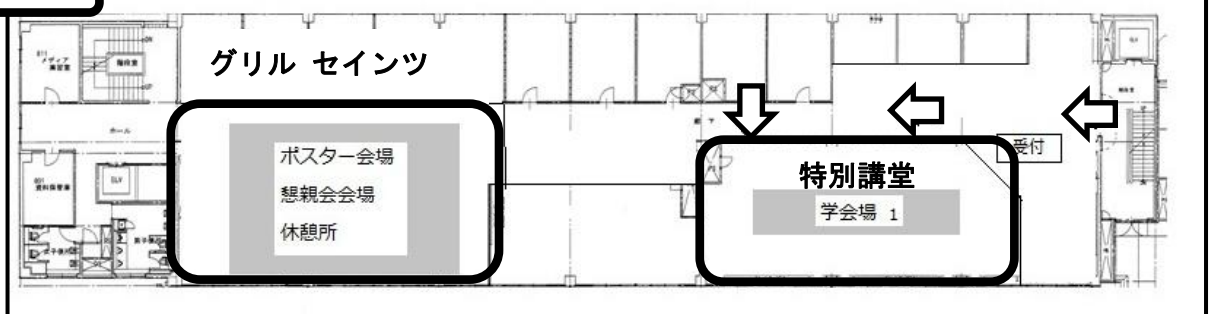
JR 御茶ノ水駅



8階



9階



※ 10時までは9階のグリルセインツは通り抜けられません。
特別講堂へは、8階を通り抜けて奥の階段へまわってお越しください。

プログラム

■特別講演 (7月7日 13:30~14:30)

座長：深井稔博

「国際歯科保健で教わったことと健康格差」

相田 潤 (東北大学大学院 歯学研究科 国際歯科保健学分野 准教授)

■歯科衛生士シンポジウム (7月7日 14:30~16:00)

「世界中の笑顔のために～歯科衛生士だからこそできること～」

座長：白田千代子・沼口麗子

DH-1. 国際歯科保健活動を通しての歯科衛生士の課題と展望

根木規予子 (ネパール歯科医療協力会)

DH-2. カンボジアにおける国際歯科保健活動

藤山美里 (NPO カムカムクメール)

DH-3. 20余年にわたるモンゴルとの国際歯科医療協力

米花佳代子 (日本モンゴル文化経済交流協会)

DH-4. トンガ王国における活動を通じて知った事

鈴木千鶴・飯田好美 (南太平洋医療隊)

■一般演題 I (7月7日 10:15~12:00)

座長：鈴木基之

1-1. 歯科国試を3度以上落ちた学生が海外の大学で学んだこと

田中健一 (がけっぷち予備校)

1-2. 口唇口蓋裂を中心としたモンゴル国における医療協力と学術調査報告

夏目長門 (愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室)

1-3. 口腔先天異常遺伝子の国際バンク

夏目長門 (愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室)

1-4. ベトナム社会主義共和国ベンチェ省での口唇口蓋裂医療援助活動に参加して

～歯科衛生士の必要性和今後の展望について～

池上由美子 (がん・感染症センター都立駒込病院看護部歯科口腔外科)

座長：夏目長門

1-5. トンガ王国の障害者に対する歯科医療ボランティア活動ー2012年ー

遠藤眞美 (南太平洋医療隊)

1-6. カンボジア王国モンドルキリ県住民に対する口腔保健活動の普及・定着 第3報

谷野 弦 ((特活)歯科医学教育交際支援機構)

1-7. ネパールの高齢者の口腔状況からのメッセージ

深井稜博（ネパール歯科医療協力会）

1-8. ふっ化ナトリウム（Sodium Fluoride）を海外に携行、輸出する際の注意点

河村康二（南太平洋医療隊）

■一般演題Ⅱ（7月7日 16:00～17:00）

座長：村田千年

2-1. レバノンのパレスチナ難民キャンプにおける歯科保健教育

高橋陽子（認定NPO パレスチナ子どものキャンペーン）

2-2. バングラデシュの都市と農村における児童を対象としたウ蝕実態調査および歯科衛生教育普及に関する研究～第1報～

太田克子（吉備国際大学大学院連合国際協力研究科）

2-3. カンボジアの中学校教員養成校における口腔保健教育の取り組み

佐々木眞佐子（NPO カムカムクメール）

座長：黒田耕平

2-4. 歯科衛生士として共に歩んで25年～ネパールでのヘルスプロモーション～

白田千代子（ネパール歯科医療協力会）

2-5. 歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）の軌跡と、24年目を迎えての目標

中久木康一（歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH））

■学生セッション（7月6日 17:30～19:30）

座長：谷野 弦・有川量崇

ST-1. タイ王国における国際保健活動

鈴木志帆美（神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会）

ST-2. 第13次タイ・スタディーツアー事業報告

河角久美子（東京歯科大学国際医療研究会）

ST-3. 国際保健部の活動について

栗栖諒子（日本大学松戸歯学部国際保健部）

ST-4. スリランカ農村地区における児童の歯牙フッ素症と齲蝕罹患状況

実藤 潤（北海道大学歯学部冒険歯科部）

ST-5. 歯科学生におけるアーリー・エクスポージャー

伊東雅哲（愛知学院大学歯学部）

■特別講演（7月7日 13:30～14:30）

■歯科衛生士シンポジウム（7月7日 14:30～16:00）

特別講演

国際歯科保健で教わったことと健康格差

相田 潤

東北大学大学院歯学研究科 国際歯科保健学分野

学生時代に、JAICOH で国際歯科保健に従事する方々のお話をうかがえ、モンゴルやバングラデシュでの活動を経験させていただいたことは、その後の私の人生を変えた。歯学部学生として、平均的に将来の進路を考えつつも、様々な可能性を模索したいと漠然と思っていた。この思いが、具体的なものになり、冒険歯科部というサークルを同級生と立ち上げたり、その後の進路選択につながっていったと思う。

現在の仕事は、日本における地域や社会集団間の健康格差や、震災からの復興と健康の回復の社会的側面を考える研究を大学でしている。健康格差とは、不公正で避けられる健康状態の差異であり、国内間の地域格差や、国際間の格差として表れる。健康格差の縮小は、日本を含めた多くの国の保健政策に盛り込まれている。国際保健は、国家間の健康格差に対する取り組みといえる。国際歯科保健で教わった経験が、こうした仕事を選ぶきっかけとなった。

Health inequalities and lessons from the international dental health

Jun Aida

Department of International and Community Oral Health,

Tohoku University Graduate School of Dentistry

My experience of international dental health introduced from JAICOH changed my life. When I was a student, I and my colleagues explored our possibilities of pass to choice. The discussions with seniors, who engaged international projects, and the experience in Mongolia and Bangladesh inspired us. We established the international dental health club “Bouken-shika” in Hokkaido University. These experiences affected my choice of pass after graduating the university.

My current work is researching on health inequalities and recovery from disasters as a researcher. Health inequalities are the unfair and avoidable differences in health status seen within and between countries. International health is activities focusing on health inequalities between countries. The social determinants of health are mostly responsible for health inequities. The social determinants also affect health conditions after disasters. Lessons from the international dental health let me choice works on health inequalities, social determinants, and recovery from disasters.

歯科衛生士シンポジウム「世界中の笑顔のために～歯科衛生士だからこそできること～」

DH-1

国際歯科保健活動を通しての歯科衛生士の課題と展望

根木規予子

ネパール歯科医療協力会

開発途上国で歯科保健活動を行う時、とかく専門家は知識や技術などを発揮することを優先しがちです。それらへの期待も貢献度も高いと言えますが、十分な医療が受けられる状況下ではない人々にとって、医療に頼り切ることなく、自らの健康を保つには、人々が一次予防を中心とした力をつけることが重要です。

その実現には、口腔内だけを診るのではなく、人々の生活や暮らしに寄り添い、同じ目線で物事を考えるという視点が不可欠です。環境や習慣が異なる場所で、口に関わる問題に関心を持ってもらうことは、戸惑うことが多くあります。しかし、人々のニーズに応える難しさは日本での臨床と同じです。

現在日本で活躍している歯科衛生士の多くは、診療所内で完結する業務に従事しています。国際歯科保健活動への参加をきっかけに、地域や様々な立場の人と連携できる広い視野を持って活動できる歯科衛生士が増えることを期待したいです。

Problems and prospects of Dental hygienist through international cooperation for oral health

Kiyoko Negi

ASSOCIATION OF DENTAL COOPERATION IN NEPAL

Health professionals often tend to give priority to show modern knowledge and treatment, when we conduct oral health activities in developing countries. There are also high expectation from developing country for latest knowledge and treatment. However, in order to maintain their health, prevention is the most important issue to the people under the circumstance of insufficient dental treatment.

To achieve the goal of prevention, it is not only to see the oral condition but it is necessary to snuggle in people's life and living and have the same point of view. There are much confusion to motivate importance of oral health to people in different environment and customs. But we also meet same confusion at dental clinical setting in Japan.

In Japan, many of dental hygienists work at dental clinic. I hope that the number of dental hygienist who can act with community with wide field of view would increase, with participating oral health promotion activities in developing countries.

歯科衛生士シンポジウム「世界中の笑顔のために～歯科衛生士だからこそできること～」

DH-2

カンボジアにおける国際歯科保健活動

藤山美里

NPO カムカムクメール、日本歯科大学東京短期大学

近年、カンボジアの首都プノンペン市内では新規開業の歯科医院の看板を目にする機会が増えました。しかし現地の歯科医師やデンタルナースは、口腔衛生の認識度がまだ低く、予防ではなく治療を主に行っているのが現状です。生活習慣を変えることや口腔内の状態を良好にすることには非常に時間がかかりますが、歯科衛生士として日本での経験を生かし、歯みがきを一つの手段として口腔保健衛生の重要性を伝え、噛める歯を育てる活動を継続して行うことは、カンボジア人の全身の健康改善にも繋がり大変意味があることだと思います。将来的には、カンボジア人自身でカンボジア人の口腔内状況を良くしていくのが理想ですが、その日が来るまでお手伝いをしていきたいと思っています。また、国内だけではなく海外でも歯科衛生士として活躍したいと思う歯科衛生士学生の道標に少しでもなればとも思います。

The international cooperation for oral health in Cambodia

Misato Fujiyama

NPO kham kham khmer, The Nippon Dental University College At Tokyo

We have seen many newly opened dental clinics in the capital city of Cambodia, Phnom Pen, recently. But for the lack of dental hygienic consciousness among dentists and dental nurses, they mainly make efforts only for dental cure, but not for dental disease prevention care. However, it is not easy to change life style and improve oral health condition soon. From these aspects, it is very meaningful for Cambodian to improve oral health condition by means of telling importance of dental hygiene and continuous practice of glowing healthy teeth movement by tooth brushing. From my experience as the dental hygienist in Japan. I want to help for the day comes when Cambodian themselves realize the importance oral care improvement. In addition, I think that it can be a little on the signpost of the dental hygienist student who wants to play an active part as a dental hygienist in not only the country but also the foreign countries.

歯科衛生士シンポジウム「世界中の笑顔のために～歯科衛生士だからこそできること～」

DH-3

20 余年にわたるモンゴルとの国際歯科医療協力

米花佳代子

日本モンゴル文化経済交流協会、大阪発達総合療育センター 歯科

1991 年から始まったモンゴルとの歯科医療協力は、現在も継続されています。

私たちは「日本人が行う活動」ではなく、「モンゴル人の健康はモンゴル人自身の手で」をコンセプトにモンゴル人歯科関係者による自立の活動を目指してきました。歯科衛生士の行う歯科保健活動では、当初は自分たちのもっているものをどんどん見せていき、その中からモンゴル側が選択しモンゴルにあった方法を見つけ出していくことが大切と考えました。当初のそれは「日本人が行ってみせる活動」であり、後に「モンゴル人と一緒に行う活動」へ、1990 年代後半には「モンゴル人自身が行う活動」へと成長していきました。

これまでの活動は、歯科関係者や子どもたちを対象としていました。今後は教育現場の教師たちや保護者にもモンゴル人自らが自分たちの健康を守っていくことができるように公衆衛生の考え方や予防のための方法を伝えてゆきたいと思っています。

International dental care cooperation with the Mongolian covering about 20 year

Kayoko Yonehana

Japanese Mongolian culture economic exchange association,

Osaka Developmental Rehabilitation Center

The dental care cooperation with the Mongolian which started in 1991 is continued still now. We aim at not "activity which Japanese people perform" but activity of independence according "Mongolians' health is by a Mongolian's own hand" to the Mongolian dentistry persons concerned to a concept. By the dentistry health care activity which oral hygienists perform, We show rapidly what one have at the beginning, and thought it important to find out the method which the Mongolian side chose from the inside and suited Mongolian. At first it was "activity Japanese people show by carrying out", and grew up to be "activity which the Mongolian itself performs" behind to "activity performed together with Mongolians" late in the 1990s. Until now this activity was targeting the dentistry persons concerned and children. I would like to tell the view of public health, and the method for prevention so that Mongolian can protect his health by himself also to the teachers and guardian at schools from now on.

歯科衛生士シンポジウム「世界中の笑顔のために～歯科衛生士だからこそできること～」

DH-4

トンガ王国における活動を通じて知った事

鈴木千鶴・飯田好美

南太平洋医療隊、カワムラ歯科医院

南太平洋医療隊の一員としてトンガ王国で学童、乳幼児のう蝕予防事業に関わってきた。対象児や保護者への歯みがき指導、フッ化物洗口・歯面塗布、更には軽度う蝕乳歯へのサフォライド塗布等が主である。今後は中高生への歯肉炎予防や成人へ歯周病予防指導を実施する予定であるが、その先にある生活習慣の改善にも取り組んでいく。歯周病予防と改善を目指しPMTCを実施するが、現地歯科スタッフへの知識、技術伝達も大きな要素となる。トンガ王国では現在、肥満改善プログラムがオーストラリアの支援で運動と食事を主として医科スタッフにより展開されている。医科との連携を図り、歯周病を改善することで糖尿病の数値が改善すること等を共有認識とする。良く咬むことで過食を抑え、肥満の改善をはかり、食事を楽しむことの大切さを指導する。また口腔機能の喪失を招かないためにも健全な口腔の維持に寄与していく。医科との連携で歯科衛生士の専門領域を広げたい。

Thing knows through activity in Kingdom of Tonga

Chizuru Suzuki, Yoshimi Iida

South pacific medical team, Kawamura dental office

It is related to later childhood and infant's dental caries prophylaxis project in the Kingdom of Tonga as the member of the South Pacific medical team.

We did the tooth-brushing instruction and the FMR in the primary school. The topical application of fluoride was done to the infant and Saforide to the primitive deciduous dentition dental caries was spread.

The project for improving adult's lifestyle approach from oral health in the Kingdom of Tonga will be done in the future. The gingivitis prophylaxis to the high school student is done. The adult periodontal disease prophylaxis is scheduled to be executed. It bears in mind so as not to extract the tooth, and the bitten mechanism is not lost. It aims at the prevention of periodontal diseases and PMTC is executed. It becomes an essence with knowledge and technological transmission to dental staff. It often bites and the hyperphagia is inhibited. The corpulency is improved. Diabetes mellitus is improved. The lifestyle of Tongan is improved. We want to expand dental hygienist's specialty region by cooperation with medical staff.

■一般演題Ⅰ（7月7日 10:15～12:00）

■一般演題Ⅱ（7月7日 16:00～17:00）

一般演題 1-1

歯科国試を3度以上落ちた学生が海外の大学で学んだこと

○田中健一

がけっぷち予備校

昨今、国家試験の合格率は60%台となり、直前の勉強だけで合格するのは難しい。卒業試験やCBTを加味すると、一昔前に比較して、今の学生は格段に勉強している。私は卒試を2度以上、国試を3度以上不合格になった学生のみを対象に、試験合格に向けた勉強を一緒にしている。学生とともに海外の under graduate を対象にした教育機関で治療の手順・使用される機材を見学している。国試では臨床の総合的な理解が求められるため、ここでの経験が国試問題を解いて行く上での助けとなり、臨床実地の点数のかさ上げを通じ学生の合格に寄与している。大学という集団授業を行う組織に対し、少人数の均一レベルの学生への勉強ということで、がけっぷち予備校は大学とは国試合格という点で競争型ではなく、補完型の位置にある。国際協力においては教育を提供する場合は多いが、本例は臨床現場を体験できることにより、当該国から支援を受けている事例である。

The learning by the students who failed the board exam for dentist from foreign activity.

○Tanaka Kenichi

Preparatory school for board exam

It is more difficult to pass the board exam than before. I started to study dental subjects with students who failed more than 3 times to pass the exam. As one of curriculum, we visit a foreign dental school to learn the process of treatment. By students' understanding a clinical pass, they could get higher score. This leads to pass the exam. The method by preparatory school is supplementary system with which offered by dental school.

一般演題 1-2

口唇口蓋裂を中心としたモンゴル国における医療協力と学術調査報告

○夏目長門¹⁾²⁾

1) 愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室、2) (特活) 日本口唇口蓋裂協会

我々は、長年に亘りモンゴル国における口唇口蓋裂の医療援助活動を行い、これまでにモンゴル最初の口唇口蓋裂センターをモンゴル国立母子病院に寄贈するとともに、モンゴル国内に僻地も含め 3 か所に言語治療センターを開設して遠隔言語訓練を行える体性を整備するとともに、モンゴル健康科学大学（旧モンゴル国立医科大学）に言語聴覚士養成を目的とした修士課程を設立した。最近ではモンゴル国厚生大臣より口唇口蓋裂初回手術治療体制完了が国民に宣言され、同国より大統領勲章が授与された。またモンゴル国の現状に合わせて作成したモンゴルによる初めての口唇口蓋裂図書を文部省研究成果公開促進費を得て、モンゴル語で出版するとともに、モンゴル国のどこからでも口唇口蓋裂育児についてのデータを入手できるようにアーカイブ化してコンピューターで公開を予定している。これと平行して、平成 17 年-19 年「科学研究費補助金基盤研究(B)海外学術調査 17406028 ならびに平成 21 年-23 年「科学研究費補助金基盤研究(B)海外学術調査 24256006 の調査研究を二回行い、新たに平成 24 年-28 年は「科学研究費補助金基盤研究(A)海外学術調査 21406032 モンゴル人の乳製品の多量摂取による口唇口蓋裂発現予防効果に関する研究」を開始したので、これまでのモンゴル国での活動概要を報告する。

INVESTIGATION AND TECHNICAL TRANSFER FOR CLEFT LIP/PALATE CARE IN MONGOLIA

○Nagato Natsume¹⁾²⁾

1) Aichi-gakuin University, 2) Japanese Cleft Palate Foundation

We have been performing investigation and technical transfer for cleft lip/palate (CL/P) in Mongolia by the grant from the Japanese government, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology and Ministry of Foreign Affairs since 1996. We have conducted donating an anesthesia machine, a surgical table, an electrocardiogram, and completed renovation work on operation theatre,

Through the experience of medical corporation in Mongolia, we formed the hypothesis of that cleft types of Mongolian differ from those of Japanese and incidence of CL/P in Mongolia is lower than that in Japan despite genetic similarity in both races.

For verifying the hypothesis, we have been conducting continuous research supported by Grant-in-Aid for Scientific Research from Japan Society for the Promotion of Science and the grant from Ministry of Foreign Affairs “Project for Medical Aid and Support for Public Health in Khovd Area” .

Acknowledgement: This study was supported by a Grant-in-Aid for Scientific Research (Category A, No. 24256006) from Japan Society for the Promotion of Science.

一般演題 1-3

口腔先天異常遺伝子の国際バンク

○夏目長門¹⁾²⁾

1) 愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室、2) (特活) 日本口唇口蓋裂協会

口唇口蓋裂の発症には母体の環境要因とともに、遺伝子が深く関わっている。疫学調査や動物実験とともに遺伝子の情報の入手するために、現在では血液の他に爪やチークスワブなどからの情報保存を行う体制を整備するとともに、ハイテクリサーチ拠点や戦略的リサーチ拠点に選定され、設備・備品を充実させている。これらの基盤を基に我々は、海外で社会奉仕活動や口腔先天異常疾患の治療や技術移転をするのみでなく、平成 16 年-18 年「科学研究費補助金基盤研究(A)一般 16209060 口腔先天異常疾患関連遺伝子解析研究」ならびに平成 19 年-22 年「科学研究費補助金基盤研究(A)一般 19209062 口腔先天異常疾患関連遺伝子解析研究」により国際協力のより本疾患の原因解明他予防を目的に世界有数のバンキングシステムを確立するとともに、NEW ENGLAND JOURNAL OF MEDICINE や NATURE GENETICS, GENOMICS 等に分析の成果を報告してきた。平成 24 年-28 年 「科学研究費補助金基盤研究(A)一般 24249092 口腔先天異常疾患関連遺伝子解析研究-遺伝子バンキング拠点形成-」を受け、新たなプロジェクト開始したので、その概要を報告する。

World Gene Bank of Oral Congenital Anomalies

○Nagato Natsume¹⁾²⁾

1) Aichi-gakuin University, 2) Japanese Cleft Palate Foundation

We have conducted not only charitable operation and technical transfer, but also epidemiological studies and laboratory based studies for development of model animals and predisposing factors of the disease. As the “Grant-in-Aid for Scientific Research A (No. 24249092)” of “Japan Society for the Promotion of Science”, we made “Gene Banking of Congenital Oral and Maxillofacial Anomalies”, so called “Cleft Gene Bank”, which is the only one institution in Japan. Coded information on genes in the oral and maxillofacial region is kept accurately and safely in the Bank. We have analyzed 9,000 cases of genes, which is the biggest analyzed cases in Japan, and reported the results. Although many genetic analyses have been carried out in Japan and overseas countries, not only did our study group elucidate candidate genes of cleft lip and palate (N Engl J Med. 2004) but also it elucidated Van der Woude syndrome (Nature Genetics, 2002). At the same time, our study group analyzed genes of basal cell phakomatosis for the first time in Japan. We also reported on differences in types of cleft lip and/or palate between races. Through our overseas medical aid activities and technical transfer for 20 years, we have built good relationships with the government of each nation, institutions, and patients that we are going to perform the joint research.

This work was supported by a Grant-in-Aid for Scientific Research (Category A, No. 24249092) from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan.

References: 1) K. Yoshiura, N. Natsume et al., Nat Genet, 38(3):324-330, 2006.

2) T.M. Zuccherro, et al., N Engl J Med, 351(8), 769-780, 2004.

一般演題 1-4

ベトナム社会主義共和国ベンチェ省での口唇口蓋裂医療援助活動に参加して ～歯科衛生士の必要性和今後の展望について～

○池上由美子¹⁾、大鋸優香²⁾、夏目長門³⁾、柳澤繁孝⁴⁾、河野憲司²⁾

1) がん・感染症センター都立駒込病院看護部歯科口腔外科、2) 大分大学医学部付属病院歯科口腔外科、3) 愛知学院大学歯学部口唇口蓋裂センター、4) 大分岡病院

JCPFは20年にわたりベトナム・ベンチェ省で口唇口蓋裂医療援助を行っている。今回初めて2名の歯科衛生士が、この活動に参加し術前口腔ケアなど歯科保健活動を行った。この活動で歯科衛生士の役割と今後の展望についての知見を得たので発表する。グアン・ディン・チュー病院で口唇口蓋裂手術を実施した57名への口腔ケアを行った。対象者の年齢は4ヶ月から60歳で、平均年齢は、6.54歳、性別は男性が24人女性33人である。今回、口腔衛生指導を行った患者57名のPCRは平均70.5%で、また齲蝕有病者率は、92.7%、一人平均齲蝕数は5.94本であった。齲蝕による歯冠崩壊、残根、歯肉炎、歯肉膿瘍が見られ口腔衛生状態は非常に不良であった。今後、歯科保健活動の充実によって、呼吸器疾患をはじめ多くの感染予防、栄養摂取状況の改善にも寄与できると思われる。国際貢献における新しいパートナーシップとしての歯科衛生士の活躍を期待する。

Participating in medical assistance for cleft lip and palate in B ẽ n Tre Province, Socialist Republic of Vietnam: Future prospects and the need for dental hygienists

○Yumiko Ikegami¹⁾, Yuka Oonoko²⁾, Nagato Natume³⁾, Shigetaka Yanagisawa⁴⁾, Kenji Kawano²⁾

1) Nursing Department Chief Dental Hygienist, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious diseases Center Komagome Hospital, 2) Department of Oral and Maxillo-Facial Surgery, Oita Medical University, 3) Aichi Gakuin University Cleft Palate Foundation Center, 4) Oka Hospital

For around 20 years, the Japanese Cleft Palate Foundation has been providing medical assistance for cleft lip and palate in B ẽ n Tre Province, Socialist Republic of Vietnam. This time, two dental hygienists participated in this project for the first time, carrying out preoperative oral care and other oral health activities. We here report on the knowledge gained about the role dental hygienists play in this fieldwork, and its future prospects. We provided oral care to 57 patients who underwent cleft lip and palate surgery at Nguyen Dinh Chieu Hospital. Subjects ranged in age from 4 months to 60 years, with a mean age of 6.54 years. They comprised 24 men and 33 women. The mean plaque control record of the 57 patients who received oral hygiene instruction was 70.5%, and the prevalence of caries was 92.7%, with a mean of 5.94 caries per individual. The state of oral health of most patients was extremely poor, with caries-induced crown collapse, root stumps, gingivitis, and gingival abscesses. The improvement of oral health efforts in Vietnam might contribute to preventing respiratory diseases and many other infections, and to improving nutritional intake. Dental hygienists can be expected to play an active role as new partners in international contribution.

演題番号 1-5

トンガ王国の障害者に対する歯科医療ボランティア活動－2012 年－

○遠藤真美¹⁾²⁾、河村サユリ¹⁾³⁾、河村康二¹⁾³⁾、飯田好美¹⁾³⁾、鈴木千鶴²⁾³⁾、竹内麗理¹⁾⁴⁾

- 1) 南太平洋医療隊、2) 九州歯科大学学生体機能制御学講座摂食機能リハビリテーション学分野
3) カワムラ歯科医院、4) 日本大学松戸歯学部口腔分子薬理学講座

トンガ王国で活動している南太平洋医療隊は、2005 年から障害者施設も対象に加え、2012 年には施設に通えない障害児・者に対する活動へと拡大した。現地スタッフとの継続した協力は、彼らの意識を変化させている。以前ならば、病院で患者を待つ考えであったが、施設に赴き生活支援という考えとなり、自然と 2012 年の施設に通えない方の活動へと広まった。現地スタッフは、以前、どのように障害児・者と関わったら良いか不安に感じていた。現在は継続した経験による自信、施設での適切な支援が良好な結果につながることを実感したことで専門職としてのプロフェッショナルリズムが目覚めてきた。一般に障害者に対する国際協力は多くの障壁があるとされるが、本結果は、適切な活動の継続が良好な結果を生み、現地スタッフのモチベーション向上につながることを明らかにした。今後はトンガの自立した活動へと移行するための支援方法を検討していきたい。

Oral health promotion for disabled people in Kingdom of Tonga -2012-

○Mami Endoh¹⁾²⁾, Sayuri Kawamura¹⁾³⁾, Kohji Kawamura¹⁾³⁾, Yoshimi Iida¹⁾³⁾,
Chizuru Suzuki¹⁾³⁾, Takeuchi Reiri¹⁾⁴⁾

- 1) South Pacific Medical Team, 2) Department of Special Needs and Geriatric Dentistry, Kyushu Dental College, 3) Kawamura Dental Office, 4) Department of Molecular Pharmacology, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

The South Pacific Medical Team, a voluntary group organized by Japanese dentists, has worked to improve oral health in Kingdom of Tonga since 1998. Our team have also supported for disabled people in two institutions for the disabled or the special class at a primary school in Tongatapu Island since 2005, and the disabled who could not go to institutions or schools in 2012. The program for the disabled has been promoted by the Tongan dental team from dental office of the Ministry of Health.

We offered the dental check up, dental education, (re) habilitations of eating, and donated toothbrushes and other necessities. From 2005 to 2007, Japanese staffs had decided almost the missions. At 2008, we changed our previous ideas. We spent day time in the institutions and had much time to discuss with staffs of the institutions and the dental team for finding out their real needs.

We have the relationship of mutual trust and good cooperation with them by long term activities. We hope this program is performed by self-reliance among Tongan people.

一般演題 1-6

カンボジア王国モンドルキリ県住民に対する口腔保健活動の普及・定着 第3報

○谷野 弦¹⁾²⁾、持田寿光¹⁾、牧野由佳¹⁾、Sok Chea³⁾、
Uy Sophorn³⁾、Vorn Vutha³⁾、Im Puthavy³⁾、宮田 隆¹⁾

1) (特活)歯科医学教育交際支援機構、2) 日本大学松戸歯学部口腔外科学講座、

3) University of Health Sciences Faculty of Odonto-Stomatology, Kingdom of Cambodia

【緒言】モンドルキリ県はカンボジア王国の最貧県の1つである。口腔保健も未整備であり、歯周病や齲蝕が未治療のまま放置されるのが現状である。当法人はJICA草の根技術協力事業(パートナー型)に採択され、23年12月より現在活動中である。【目的】地域住民の歯科・口腔疾患に対する知識とモチベーションの向上に寄与し、自発的に予防と健康管理に取り組むようになることを目的とする。【活動内容】当事業では、地域および学校に対する口腔/歯科保健の普及活動を実施している。地域において、Dental Care Assistant(DCA)を通して村人への教育を実施し、小学校教員への口腔/歯科保健の教育を通じて、生徒達による歯磨き実習がなされている。現在では口腔/歯科保健の普及活動はターゲット地域において定着してきた。今後は本事業終了後も活動がモンドルキリ州で継続されることを目指し、OISDEが主導して行ってきた活動を保健局、教育局へ技術移転を行っていく予定である。

Popularization and Penetration of Oral Health Promotion in Mondolkiri Province,
Kingdom of Cambodia -Third Report-

○Gen Yano¹⁾²⁾, Toshimitu Mochida¹⁾, Yuka Makino¹⁾, Miho Nakajima¹⁾, Sok Chea³⁾,
Uy Sophorn³⁾, Vorn Vutha³⁾, Im Puthavy³⁾, Takashi Miyata¹⁾

1) Organization of International Support for Dental Education, 2) Department of Oral Surgery, Nihon University School of Dentistry at Matsudo, 3) University of Health Sciences Faculty of Odonto-Stomatology, Kingdom of Cambodia

【Introduction】Mondulkiri province is one of the poorest provinces in Cambodia. Oral health is also underdeveloped, there is at present being left in untreated dental caries and periodontal disease. OISDE is adopted Grassroots Technical Cooperation Project (partner type) by JICA, which is currently active from December 2010. 【Purpose】The purpose of this project is to contribute to a rise in the knowledge of dental and oral diseases, and to motivate local people to prevent them and care about dental health by their own initiative. 【Activities】In the project, OISDE has conducted popularization and penetration of oral health promotion to community and schools in Mondulkiri province. For community, DCA have taught villagers about the knowledge of oral care and how to brush their teeth. For schools, student brushing activities are conducted by teachers who are instructed by OISDE specialists. Activities of popularization and penetration of oral health promotion has been accepted and performed among villagers in target area. Latter part of the project, OISDE will focus on transferring oral health care promotion skills to local authorities, such as Provincial Health Department, and Provincial Education Department, so as to keep the activities of oral health care promotion in Mondulkiri even after the project finishes in 2013.

一般演題 1-7

ネパールの高齢者の口腔状況からのメッセージ

○深井穂博、白田千代子、古川清香、中村修一

ネパール歯科医療協力会

ネパールでの活動を始め、今年で 25 周年を迎える。民族・文化の違いを乗り越え、活動を支えたものは、活動の目的とそれを成し遂げるための信念であると確信している。担当者が数年先を見越した企画を地域のネパール人と作り、それを忠実に実行してきたからだと考える。

我々は、カトマンズ校外の 5 つの村と 2 つの山岳地帯で、小児・学童・妊婦・成人を対象に活動してきた。その内容は、口腔に関わる保健・医療の問題をネパール人の地域組織を利用し共に解決であり、現在も継続している。22 年以上前には、高齢者と関わりを持つことすら困難であり「口を見せて下さい。」とお願いすることは、至難の業であった。しかし、長年の村人との信頼関係の構築により、歯科受診行動を起こしにくかった高齢者の口腔についての調査を、ここ 3 年の間、行うことが可能となった。

日本では歯科を一度受診していない高齢者の存在は考えられないが、ネパールでは歯科受診をすることのできない高齢者は多く存在している。その高齢者の口腔が示唆していることの意味を知ることができたので、ここに報告する。

Message from Nepal elderly with their oral condition

○Kakuhiro Fukai, Chiyoko Hakuta, Sayaka Furukawa, Shuuichi Nakamura

Association of Dental Cooperation in Nepal (ADCN)

It has been 25 years since we started oral health activities in Nepal.

We are so sure that the purpose and strong mind is core stone of promoting activities and to conquer the difference of ethnic and culture. Associations of Dental Cooperation in Nepal (ADCN) member planned activities with the goal few years ahead with Nepal residents and do the plan as we planned.

The targets of our activities are preschool children, school children, expectant mother and adults, in five villages in suburb of Katmandu and two villages in mountain areas. Our continuing activities are to solve the oral health problems together with Nepal people and community. It was difficult even to communicate with elderly people and asking to show their oral was almost impossible in 22 years ago. With building relationship between Nepal people and ADCN members enabled to conduct oral health survey in elderly for recent 3 years. There are scarcely to see the oral condition of elderly without any dental treatment in Japan, but many or elderly are without any dental treatment in Nepal. Today, we would report the message from Nepal elderly with their oral condition.

一般演題 1-8

ふっ化ナトリウム (Sodium Fluoride) を海外に携行、輸出する際の注意点

○河村康二、河村サユリ、鈴木千鶴、飯田好美、尾花三千代

南太平洋医療隊、カワムラ歯科医院

う蝕予防にフッ化物の応用は有効な手段である。その一方法のフッ化物洗口法では、ミラノールやオラブリス等の歯科用に調整されたフッ化ナトリウム製剤を用いて行うが、国際協力では高価なため安価で購入できる和光純薬製の試薬特級あるいは1級ふっ化ナトリウム (Sodium Fluoride) が使用されている。しかし発展途上国でフッ化物洗口を実施する際、現地では入手困難となるため、活動団体が供給することが多いと思われる。経済産業省は、輸出について安全保障貿易管理 (Export Control) の観点から外国為替及び外国貿易法に基づき実施している。ふっ化ナトリウムは、輸出令第3項(1)、貨物等省令第2条1項第1号(カ)に該当するため、輸出許可申請を行い、輸出許可の後、国外持ち出しが可能となる。誤りがあるとボランティア活動に支障をきたし、国内に於けるフッ化物の応用にも差し支える恐れがあるので、この点について留意点を述べる。

Issues to pay attention when we carry or export Sodium Fluoride to abroad

○Kohji Kawamura, Sayuri Kawamura, Chizuru Suzuki, Yoshimi Iida, Michiyo Obana

South Pacific Medical Team, Kawamura Dental Office

The application of the fluoride is efficient measures in the dental caries prevention. In the FMR procedure, it does by using the sodium fluoride preparations such as Miranols and oraburisu. The substance that can be bought at a low price in the international cooperation is good. Reagent high grade or the first class Sodium Fluoride of the Wako pure Chemical Industries, Ltd is used.

However, it seems that the activity group often supplies, it because they become acquisition difficulty in the locale when the FMR is executed in the developing country.

The Ministry of Economy, Trade and Industry is executing export from the viewpoint of Export Control based on the foreign currency exchange and Foreign Trade Law.

Sodium Fluoride applies for the export allowance because it corresponds to No. 1 in the second striae 1 nucha of the ministerial ordinance (カ) such as the third nuchas (1) of the export order and freights.

The foreign countries taking out become possible at the posterior of the permission for exportation.

It interferes to the volunteer work when the mistake is found, and it might hinder the application of the fluoride in the country.

The note is described on this point.

一般演題 2-1

レバノンのパレスチナ難民の幼稚園における歯科保健教育

○高橋陽子¹⁾、中久木康一¹⁾²⁾

1) 認定 NPO パレスチナ子どものキャンペーン、2) 東京医科歯科大学顎顔面外科

レバノンにおけるパレスチナ難民は、1948年のイスラエル建国宣言に引き続く中東戦争により発生し、認定されているだけで40万人にのぼる。これはレバノン人口の12%を占め、多くは65年を迎えた今日もなお12か所の難民キャンプに住むことを強いられ、失業率は60%、貧困ライン以下にあるのが70%以上とされている。近年ではシリア情勢の悪化から避難してきた人々により、キャンプ内の人口はほぼ倍増し、貧困家庭に対する支援が更に必要とされている。

NISCVTでは1994年より「子ども歯科プロジェクト」を展開し、現在6つの難民キャンプに歯科診療所を置いている。また、首都ベイルートには歯科医師のヘルスエデュケーターを置き、幼児への歯科健康教育に積極的にとりくんでいる。我々の支援を含め、この概要を紹介する。

Dental Health Education in Kindergarten of Palestinian Refugee in Lebanon

○Yoko Takahashi¹⁾, Koichi Nakakuki¹⁾²⁾

1) CCP Japan, 2) Maxillofacial Surgery, Tokyo Medical and Dental University

The National Institution of Social Care and Vocational Training (NISCVT) is a humanitarian non-governmental organization working among Palestinian communities in Lebanon. It was established after the massacre at Tal El-Zaatar refugee camp in 1976 to care for children who had lost one or both of their parents in the massacre.

The first NISCVT dental clinic was established in 1992 to narrow the existing gap in dental health care for Palestinian refugee children living in the camps and population gatherings in Lebanon. Dental check-up and preventive care for all kindergarten children in refugee camps, dental health education for children and mothers, and dental treatment for the poor, are currently offered by free of charge in six dental clinics inside or close to refugee camps.

We implement health education mainly for Kindergarten teachers. We will present brief report of the dental health activities.

一般演題 2-2

バングラデシュの都市と農村における児童を対象としたウ蝕実態調査 および歯科衛生教育普及に関する研究 ～第1報～

○太田克子¹⁾、滝波修一²⁾

- 1) 吉備国際大学大学院連合国際協力研究科、
- 2) 北海道大学大学院歯学研究科口腔病態学講座歯科放射線学分野

<目的> 歯科衛生に関する先行研究が極めて少ないバングラデシュでの児童のウ蝕と歯周疾患の現状を明らかにし、口腔衛生改善の方策を検討する。<方法> ダッカ市街地 Shmlapu1 小学校 (S校) の2年生 49名、3年生 69名、および農村部の Tarma 村小学校 (T校) の2年生 40名、3年生 40名を対象に、食生活や生活習慣等に関する聞き取り調査、ウ蝕原生菌 (RD) テスト、口腔内診査を行った (調査期間: 2013年1月7~20日) <結果> S校とT校間で歯磨き回数や所要時間に有意差はなかったが、S校では竈の灰を指で磨く割合が24%に対し、T校では37%であった。口腔内診査では、両校ともにウ蝕歯数は3本/人程度であったが、S校はT校よりも口腔清掃状態、歯肉炎、歯石沈着が有意に悪く、RDテストでは、S校がhigh、T校はlowの割合が有意に高かった。<考察> 生活/食習慣が異なる都市と農村における学童の口腔状況の違いから、口腔衛生を改善するためには、口腔衛生教育の必要性が示唆された。

Dental Caries Status Survey targeting Children in the Urban and Rural Communities and Study of the Dissemination Dental Health Education in Bangladesh -Vol.1-

○Katsuko Ota¹⁾, Shuichi Takinami²⁾

- 1) Kibi International University Graduate School of International Cooperation and Development
- 2) Division of Oral Radiology, Department of Oral Pathobiological Science, Hokkaido University
Graduate School of Dental Medicine

The objective of this study is to clarify the actual state of dental caries and periodontal disease of children in Bangladesh, a place lacking pre-existing dental health research or studies on measures to improve dental health.

First of all, interviews on dietary habit, living habit, etc., Streptococcus mutans tests (RD test), and intraoral examinations were conducted on 49 second graders and 69 third graders of S school located in an urban district of Dhaka and 40 second graders and 40 third graders of T school in a rural area. The results show that there was not much difference in frequency of or amount of time required for brushing teeth between S school students and T school students. However, the status of oral cleanliness, gingivitis, and tartar deposition of S school students was significantly worse than that of T school students. Based on this research, it was discovered that the oral condition of children living in urban area differs from that of children living in rural area due to differences in living/eating habit, and it was recognized that education of dental health is highly required for improving their dental health.

一般演題 2-3

カンボジアの中学校教員養成校における口腔保健教育の取り組み

○佐々木眞佐子、藤山美里、沼口麗子

NPO カムカムクメール

【目的】私達は、プノンペンの中学校教員養成校で2010年からむし歯予防のワークショップを開催している。今回は、私達のリーダー研修、リーダーが実施した教育実習、その教育実習の評価について報告する。

【対象及び方法】2013年1月29日に1年生155名を対象に開催した。前半は、学生を10人ずつ15グループに分けグループリーダー31名に対し私達がむし歯予防講義と歯磨き指導の実習を実施した。後半は、リーダー31名がそれぞれのグループに戻り、学生達に講義と実習を実践した。最後に自記式質問紙調査票を直接配布、回収した。

【結果及び考察】リーダーの話し方、教材活用法の自己評価は、全員がとても満足と満足の回答だった。他者評価は、教材活用法では全員が満足だったが、話し方では不満足の評価が3.3%あった。前回に比較しワークショップに真摯に取り組む姿勢が見られたが、リーダーの質の差等の問題点が明らかになり今後の検討課題となった。

Oral Health Instruction at the Regional Teacher Training Center in Phnom Penh

○Masako Sasaki, Misato Fujiyama, Reiko Numaguchi

NPO Kham Kham Khmer

[Objective] We have been holding the workshop of preventing cavities since 2010 at the Regional Teacher Training Center (RTTC) in Phnom Penh. In this study, we report the leader training lectures, the teaching practice by the leaders, and the student evaluation of the teaching practice.

[Method] The workshop was conducted for 155 year-one teacher trainees of RTTC on January 29th, 2013. We formed 15 groups of 10 students and chose 31 group leaders. In the morning, we gave a lesson to the 31 group leaders. In the afternoon, the 31 leaders gave lessons to their own group members. After the workshop, questionnaires were administered to all of the students.

[Results and Discussion] All of the 31 leaders made the highest and the second highest self-evaluation of their instruction. All of the other students made the highest evaluation of the use of the teaching materials. On the other hand, 3.3% of them made low evaluation of the way of speaking. Compared with the last workshop, the students were more positive and asked us more questions about cavities prevention. However, differences of ability were evident in the group leaders. We should consider the ability difference of the group leaders in the future.

演題番号 2-4

歯科衛生士として共に歩んで 25 年 ～ネパールでのヘルスプロモーション～

○白田千代子、村越由季子、増田恵美子、古川清香、根木規予子

ネパール歯科医療協力会

日本でヘルスプロモーションを推進することも困難であるのに、ネパールでのヘルスプロモーションを実現することが出来たのは、楽しい活動を支えてくれる仲間達が信頼を寄せてくれるネパールの村人を育てて行ったからである。まさに、人づくりであると考えます。歯科衛生士の仕事として、「保健指導＝健康教育がある。」だれもが、健康教育をなり合いとして仕事をしてきている。「日本でできることは、海外でもできる。」と思い、地域で、活動できる人を選択し組織を作り、その中のリーダーを選び、その人に寄り添い活動を支援する。組織の活動を発表する場をつくり、活動の大切さを地域で活動する他の組織に知ってもらい、活動の組織を広げる、つまりヘルスプロモーションを実施してきた。

ネパールの地域の人々で組織したグループが、健康を意識して活動をしていけるよう援助して 25 年、その間、歯科衛生士として支援してきたことを、皆さんに提示してみたいと思う。

Twenty-five years as Dental Hygienist ～Health promotion in Nepal～

○Chiyoko Hakuta, Yukiko Murakoshi, Emiko Masuda, Sayaka Furukawa, Kiyoko Negi

Association of Dental Cooperation in Nepal (ADCN)

It is difficult to promote health promotion activities in Japan. The reason to achieve the health promotion activities in Nepal is foster Nepal village people who trust us with fun activities by Association of Dental Cooperation in Nepal (ADCN) member. It could be called as empowerment of human resources.

One of the roles of dental hygienist is Health instruction (Health education). We think that “the activities we do in Japan are also able to do in overseas”. We selected core health volunteer person from the community to make the team, select the leader of the team and we empower the leader and team to do the activities. We give a chance to show the activities to the public to expand the activities. That is to say that we conduct health promotion.

We have supported the health volunteer organized by community people for 25 years. Today, we would like to show the content of supports for Nepal people as dental hygienist. .

演題番号 2-5

歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）の軌跡と、24年目を迎えての目標

○中久木康一、白田千代子、深井穂博、村居正雄

歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）

JAICOHは1990年9月に設立された「歯科の国際保健医療協力を語る会」を前身としており、今年で24年目を迎える。設立時は、歯科保健医療を中心とした国際協力を実施するとともに、その背景にある栄養・食生活の改善についての調査を行っていた。10年を迎えた2000年より運営体制が変更され、連絡協議会として多くの歯科系国際保健医療団体とのネットワークを構築し情報はオープンに提供され、人材育成のための小規模国際協力活動の助成が行われてきた。2010年には20年を迎えての運営体制の変更により歯科衛生士を会長として迎え、歯科保健にフォーカスが当てられた。研修会・交流会の開催を通じて情報交換や入口としての機能を持たせ、従来のニュースレターの発行に加えて、ホームページやメーリングリストを活用しての情報発信の活発化を図った。更に、歯科以外の国際保健医療関係者への情報提供による、国際保健における多職種連携の形を模索している。

Steps and aims of Japan association of International Cooperation for Oral Health,
with its 24th year

○Koichi Nakakuki ,Chiyoko Hakuta, Kakuhiro Fukai, Masao Murai

Japan association of International Cooperation for Oral Health (JAICOH)

JAICOH was established in 1990, and it will be the 24th year in 2013. It implemented international dental health cooperation and research about nutrition and daily diet improvement in the beginning. From 2000, it has been developed as a committee, invited many international dental health organization, and share information. Also it gave funds to support small groups. From 2010, a dental hygienist was elected as chairperson, and it focused on dental health. It holds workshops routinely to exchange information, and it can be a gateway for international dental health activities. It opens own web site and manages mailing list, which help sharing information in addition to newsletter. Moreover, it seeks a way to work as a part of multi-profession team in international health field, by providing information for the other international health workers.

■学生セッション（7月6日 17:30～19:30）

学生セッション ST-1

タイ王国における国際保健活動

○鈴木志帆美¹⁾、齋藤孝平¹⁾、塩津朋子¹⁾、渡邊 純¹⁾、田中らいら²⁾

1) 神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会、2) 東京歯科大学

【目的】 タイ王国の文化・歯科医療制度についての理解を深め、国際医療保健における歯科医療の在り方を模索することとした。

【方法・結果】 場所：タイ王国（バンコク・ナーン県）、日時：2013年2月17日～22日。参加者：学生5名（うち国内待機2名）、活動場所：ノンムアン保育園、リンパカ・パシャヌコ小学校、山村民族の村にある小学校、ターナンパー病院、マヒドン大学歯学部。

【考察】 今回、現地の学生と一緒に歯科保健活動をするのははじめてだった。この歯科保健活動を通じ、アイスブレイキングを加えたことで子供たちとの一体感が生まれ保健活動がスムーズにできたので、これらの必要性を感じた。今後は国際歯科保健活動をより良いものにするため更なる理解が必要である。

International health activity in Thailand

○Shihomi Suzuki¹⁾, Kohei Saito¹⁾, Tomoko Shiozu¹⁾, Jun Watanabe¹⁾, Raira Tanaka²⁾

1) Kanagawa Dental University, Student Volunteer Association for International Health

2) Tokyo Dental College

Object : For the purpose of understanding culture and dental health in Thailand, thinking of international health department of dental health

Methods and Result : Date February 17-22. 2013, Place Nonmuan nursery school, Rimpaka pashanukor primary school, Primary school (hill-tribe village), Tha wang pha community hospital, Mahidol university, Faculty of dentistry. Member : 5 students (2 student waited in japan.)

Conclusion : This is the first time that we do dental health promotion activity with local students. We felt the need of ice break because we could got along well with that person we did health promotion activity. We must more understand health promotion activity and thought of visiting the countryside.

学生セッション ST-2

第 13 次タイ・スタディーツアー事業報告

○河角久美子¹⁾、笠原俊宏¹⁾、倉澤馨¹⁾、酒井芙貴¹⁾、高橋謙次郎²⁾、田中らいら¹⁾、
杉浦貴則¹⁾、南 健太¹⁾、阿部 智¹⁾、石井啓裕¹⁾、門井謙典¹⁾、眞木吉信¹⁾

1) 東京歯科大学国際医療研究会、2) 明海大学歯学部

本事業は、日本の歯科学生が海外へ行き、現地の行政機関や大学、医療機関等を訪問し、国際交流活動や歯科事情の見学を行い、自国と他国の歯科医療状況の違いへの理解を深めることを目的とした。

【事業概要】 期間：2013年3月16-22日、地域：タイ王国（バンコク、チェンマイ、プラー）、訪問場所：Intercountry Center for Oral Health (ICOH)、チェンマイ大学歯学部、プラー公衆衛生局。

第13次スタディーツアーはタイ王国を訪問した。現地において、タイ政府とWHO 東南アジア地方事務所の共同機関であるICOHや、チェンマイ大学歯学部、プラー公衆衛生局を見学した。タイの歯科医療・保健を実際に見ることで、日本との違いを学び、深く考えることができた。この経験を踏まえて、歯科学生の国際交流を益々発展させるとともに、海外の医療保健システムや医療技術、教育の取り組みに関する情報を学ぶ姿勢を身につけていきたい。

13th study tour for community dental health in Thailand

○Kumiko Kawasumi¹⁾, Toshihiro Kasahara¹⁾, Kaoru Kurasawa¹⁾, Fuki Sakai¹⁾,
Kenjiroh Takahashi²⁾, Raira Tanaka¹⁾, Takanori Sugiura¹⁾, Kenta Minami¹⁾,
Satoshi Abe¹⁾, Akihiro Ishii¹⁾, Kanenori Kadoi¹⁾, Yoshinobu Maki¹⁾

1) Student Association of Tokyo Dental College for International Oral Health,
2) Meikai University School of Dentistry

The aim of this study tour project is to understand a difference of dental health system between Japan and other countries, by Japanese dental students go to the foreign countries and observe dental school, hospital, clinic, local government and other health institution.

Outline of this project

Period: 16-22 March, 2013

Country: Kingdom of Thailand (Bangkok, Chiang-mai, Phrae)

Visit place: Inter-country Center for Oral Health (ICOH), University of Chiang-Mai School of Dentistry, Phrae Public Health Office

In the 13th study tour, we visited the Kingdom of Thailand, and observed ICOH, University of Chiang-Mai School of Dentistry and Phrae Public Health Office. In this project, we studied a difference of dental health system between Japan and Thailand. Then, we want to develop international exchange by dental students and to learn health system, medical technology, and information about the efforts of education.

学生セッション ST-3

国際保健部の活動について ○栗栖諒子、新崎啓介、加藤利奈 日本大学松戸歯学部国際保健部

私たち国際保健部はスタディーツアーや海外の歯科学生との交流・ボランティア活動・勉強会・講演会等を企画実施し、歯科学生として今何ができるかを模索実行し、歯科医療における将来の国際協力の在り方について探ることを目的としています。昨年度はカンボジアスタディーツアーへの参加や APDSA 日本セミナーへ参加させていただくことで実際に現地に行き体験し、現地にいらした先生方のお話を伺うことができました。これらをふまえてより国際保健を知り身近に感じ、これからもさまざまな活動に力をいれていきたいと思っております。今回はそのような私たち国際保健部の昨年度の活動について、また今後の課題や挑戦したい活動について発表させていただきます。

Activity of Kokusaihoken-bu ○Ryoko Kurisu, Keisuke Arasaki, Rina Kato Kokusaihoken-bu, School of Dentistry at Matsudo, Nihon University

We Kokusaihoken-bu are planning exchanges with dental students and overseas study tour, volunteer activities, study sessions, lectures, etc., carried out to seek, now what can be done as dental students, run, and dental are intended to explore ways of international cooperation for the future in medicine.

Last year, we thanked for participating “Cambodia study tour” and APDSA Japan summer seminar. Through these activity, we could understand what the doctors said when we went and experimented. We considered we want to join several activities and make effects, because we did these activities and learned about International presentation of health.

This time will be announced about activities you want to challenge the future challenges and also, the activities of our last fiscal year of such kokusaihoken-bu.

学生セッション ST-4

スリランカ農村地区における児童の歯牙フッ素症と齲蝕罹患状況

○実藤 潤、水谷友美、橋本理紗、池上なつみ

北海道大学歯学部冒険歯科部

【目的】スリランカ中部の農村地域では、多くの家庭が過剰なフッ化物を含んだ井戸水を生活用水として使用している。本地域での児童の歯牙フッ素症と齲蝕罹患状況を調査し、口腔衛生指導の方策を検討する。

【方法】9月13日にPoronnarwa 県 Lankapura 町 Gemunupura 小学校の1年生51名、2年生21名、5年生17名に対し、口腔診査と口腔ケアに関するアンケートを行った。

【結果】歯牙フッ素症の有病率は、1年生が55.6%、2年生が80.0%、5年生が71.4%であった。dftは、歯牙フッ素症罹患患者では2.92、非罹患患者では3.18であった。また、歯磨きは全員が「毎日または、ほぼ毎日」行い、「朝1回のみ」が最も多く47.2%、次いで「朝と夕の2回」が40.4%であった。今回の調査は対照群を設定しておらず速報として報告する。引き続き調査を行いこの地域における経時的な変化を調査する予定である。

Dental fluorosis and caries prevalence of children in Sri Lanka rural area

○Jun Sanefuji, Tomomi Mizutani, Risa Hashimoto, Natsumi Ikeue

Interactive Dental Students' Alliance for Health Care, School of Dentistry,
Hokkaido University

Purpose: In rural areas of central Sri Lanka, many families use well water containing excess amount of fluoride as daily use water. We examined conditions of dental fluorosis and caries prevalence of school children in this area.

Methods: 89 children (1st grade: 51, 2nd grade: 21 and 5th grade 17) of Gemunupura school in Lankapura, Poronnaruwa district were examined oral conditions and taken through a questionnaire about oral health care on September 13th.

Result: Prevalence of dental fluorosis was 55.6% (1st grade), 80.8% (2nd grade), and 71.4% (5th grade). Prevalence of dental caries experience (dft) was 2.92 among children affected with dental fluorosis and 3.18 among unaffected. In addition all children brush their teeth everyday or almost everyday, and 47.2% of them brush their teeth “only in the morning” and 40.4% do “in the morning and evening”.

Since this study doesn't include control group, we present state as a prompt report. We will investigate ulterior change of school children in this area continuously.

学生セッション ST-5

歯科学生におけるアーリー・エクスポージャー
○伊東雅哲¹⁾、杉山陽子¹⁾、加藤大貴²⁾、夏目長門²⁾、
前田初彦³⁾、服部正巳⁴⁾、千田 彰⁵⁾

1) 愛知学院大学歯学部、2) 愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室、3) 愛知学院大学歯学部口腔病理学講座、4) 愛知学院大学歯学部高齢者歯科学講座、5) 愛知学院大学歯学部保存修復学講座

アーリー・エクスポージャーとは、確かな医療技術・知識そして豊かな人間性を兼ね備えた医療人を育成するために必要不可欠なプログラムであると考えられている。愛知学院大学歯学部では、発展途上国への『医療ボランティア』が行われており、大学生をはじめ、高校生など数多くの学生が参加している。ボランティア活動では、歯科治療の補助にあたる。学生は早期に医療現場を肌で感じるにより、歯科医療への携わり方、患者の方々との信頼関係の大切さなどを学ぶことができる。早期体験が歯科医師を目指すためのモチベーション高揚につながっている。アーリー・エクスポージャーは、これから医療教育をうける学生にとって、極めて身近な存在になると推察される。学生は、医療に携わる自覚の形成、さらに自らの将来像のイメージ化のために、積極的に参加すべきであると思われる。

The Aichi-Gakuin University (AGU) Early Exposure Program for Dental Students

○Masaaki Ito¹⁾, Yoko Sugiyama¹⁾, Tomoki Kato²⁾, Nagato Natsume²⁾,
Hatsuhiko Maeda³⁾, Masami Hattori⁴⁾, Akira Senda⁵⁾

1) School of Dentistry, Aichi-Gakuin University, 2) Division of Research and Treatment for Oral and Maxillofacial Congenital Anomalies, School of Dentistry, Aichi-Gakuin University, 3) Department of Oral Pathology, School of Dentistry, Aichi-Gakuin University, 4) Department of Gerodontology, School of Dentistry, Aichi-Gakuin University, 5) Department of Operative Dentistry, School of Dentistry, Aichi-Gakuin University

The AGU Early Exposure Program is intended to provide dental students with the opportunity of getting actual experience in a clinical setting. The program is a part of the AGU school of dentistry and consists mainly of volunteer programs in developing countries. Many students take part in the program and experience various clinical situations involving close contact with real patients. The Early Exposure Program is very useful because it allows students not only to experience the basics of the profession of dentistry but also to motivate them to study more proactively and it encourages them to think of their future areas of specialization.

~Memo~

第24回歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）学術集会 抄録集

発行日：2013年7月5日

発行人：白田千代子

発行：歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）

〒113-8549 東京都文京区湯島 1-5-45 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科

URL：<http://jaicoh.org/> E-mail：info@jaicoh.org TEL：03-5803-4971

郵便振込：00140-9-599601 歯科保健医療国際協力協議会